

199Q  
太陽族

●出演  
●スタッフ

工藤 俊作 河辺 実記 岸部 孝子 西岡 昌美 北山 あき 森本 研典 中道 裕子(フロンセクトDAA)  
福田 転球 橋田 雄郎 後藤 昌彦(劇動団) 柿谷 達也 斎藤 政紀 上野 里美 土佐 倫代 高野 智子 オカワ 倍達  
美術 今井 弘/照明 徳田 芳美/音効 堤野 雅嗣  
小道具 音山 乙吉/衣裳 山本 京子/宣伝美術 ツチヤミノル 増田 和茂  
舞台監督 池田ともゆき/企画 河内 厚郎/プロデューサー 八重垣らく



# 「峠のわが家」

——芦田川物語篇——

●作・演出 岩崎 正裕



●大阪公演 AI HALL 提携公演

●日時 1991年6月26日水 7:30  
27日木 7:30  
28日金 7:30

●場所 AIHALL  
●料金 前売 ¥1800 当日 ¥2000  
●前売取扱 チケットぴあ ☎06(363)9999  
●問合せ・電話予約 AIHALL ☎0727(82)2000

●広島公演

●日時 1991年7月27日土 1:00  
●場所 府中文化センター  
●問合せ (社)府中青年会議所 ☎0847(45)2648



Photo:Michiaki Fukuhara

## 『再び市民の中へ』

河内 厚郎

日頃から近畿や中国といった西日本各地のJCと親しくおつきあいしているのですが、このたび広島県府中市で開かれるイベントに、芝居を上演したいとの相談を受けました。私としては日頃から親しまつて関西の劇団をもっていきたいと思い、国立文楽劇場の人とも相談して、199Q太陽族に白羽の矢をたてました。ニューウェーブ劇団でありながら、しっかりしたドラマツルギーをそなえ、テーマ性をあわせもっているからです。JCから要望のあった「地球を考えさせるテーマ」で新作に挑んでもらったのです。

府中での公演はいわゆる演劇ファン以外の一般市民も多く、演劇人だけがうちわで楽しむマニアックな芝居では通用しません。情熱だけでなく常識も要求されます。

しかも町づくり、地域おこしのアイデンティティを模索する催しでの公演ですから、新しい市民劇を創るようなものになると期待がかかっているのです。

伊丹も、全国に先がけ「劇場都市宣言」にふみきった町。新たな旅立ちのステージに不足はないでしょう。

(関西文学編集長)



このチラシは、再生紙を使用しています。

印刷 グラフ印刷株式会社

## 「遅れてきたジョン・レノン」

八重垣らく

■私はジョン・レノンに聞きたいことがある。IMAGINEすることで世の中が変わると、本当に思っていたのですか？ LOVE & PEACEを唱えるだけで不可能がなくなると、本当に考えていたのですか？ と……。

夢や理想を実現するには、大衆の漠然たる「連帯」よりも、「力」を持った多くの個人が必要ではないのか。たとえば、子供たちに公園をつくるにも、自然を守るにも、人が集まるだけではどうしようもないと思う。

このことを頭に入れて「199Q太陽族」をみえる。

■1982年に大阪芸術大学の岩崎正裕を中心に結成。つかこうへい、如月小春をへて、'85年よりオリジナル作品を年2回のペースで発表し続けている。

この劇団の性格は、旗上げにつかの「戦争で死ぬなかったお父さんのために」をとりあげ、続いて如月の「工場物語」「家、世の果ての……」を演じていることからわかるように、テーマ性を重視した社会派ニューウェーブ劇団である。岩崎作品になってからもそれが一貫している。「抵抗者たち'89」ではボブ・ディランの歌にのせて原子力発電所を、「虫たちの砦」では「ガラスの地球を救え！」というメッセージを遺した手塚治虫を、「ピースマン」ではジョン・レノンとオノ・ヨーコをあつかい、国際平和都市・広島でも公演を敢行し、「帝国水晶の夜」ではベルリンの壁をからませてナチスのユダヤ人迫害を描いている。

戦争も、学生運動も知らない世代の彼らが、何にかられて私たちにメッセージを送り続けているのだろうか。

今の「新劇」でさえ取り上げようとしないテーマを、あえて舞台にのせるのはなぜなのだろうか。

■ここに良きにつけ悪しきにつけ、太陽族を語るのにふさわしいエピソードがある。芸夫の先輩、劇団新感線の主力メンバーである古田新太、鳳ルミ、橋本じゅんがかつてこの劇団のメンバーだったということだ。彼らが濾過されて残ったものが濃縮された劇団の「エッセンス」であり、また失ったものは可憐な「花」なのだと思う。

■太陽族をみつづけてきた者として、自分なりに彼らの「問いかけ」に「異議申し立て」をしなければならなかった。それが、今回の「プロデュース」である。また彼らの「返答」がこの舞台である。

つまり、夢や理想を本当に実現する気があるならば、「力」が必要だということ。少なくとも資本主義国・日本では「力」が「権力」となり、また「金」となる。そのことに彼らは気づいているのだろうか？

今回、JC(日本青年会議所)から制作費の援助をうけ、広島県府中市では芝居に興味のない1500名の人々の前で演じ、しかも劇団のテーマを表現してゆかなければならない。これまでの「草の根」だけではなく、多くの人をひきつける「花やか」な要素が必要となってくる。今までとは比較にならないほど苛酷な公演条件である。

■太陽族が単にメッセージを提示するだけの劇団なのか、それともメッセージの先にある世界を表現できる劇団なのか、この公演でわかることだろう。

このプロデュースは、'90年代において'70年代の精神を持ち続ける、演劇界の「遅れてきたジョン・レノン」——岩崎正裕への私からの挑戦状である。

(プロデューサー)

